

実践事例発表レジュメ

研修・研究事業名	シンポジウム「社会教育施設の経営の実際と連携」
実践事例名（テーマ）	田原市図書館における経営の実際と特徴的な取組
事業主体（実施機関）	田原市中央図書館、渥美図書館
連携・協力機関等	本文参照
発表者	豊田高広(田原市中央図書館)

期日 平成29年7月28日

内 容

1 田原市とその図書館の概要

- ① 愛知県田原市...人口6万強、渥美半島のほぼ全域、農業と自動車産業、豊かな自然、少子高齢化・医療過疎化やそれらの地域間格差が大きな課題。
- ② 田原市図書館...中央・渥美・赤羽根の3館+移動図書館車2台。
- ③ 「市民の資料や情報に対する要求にこたえ、自由で公平な資料の提供を中心とする諸活動によって、市民の文化、教養、調査、研究、レクリエーション等の生涯にわたる学習活動を積極的に援助し、かつ、人々の交流とコミュニティ活動の推進に寄与するため、図書館を設置する。」（田原市図書館条例第2条）
- ④ 「1 自立を助け、人がつながる機会を提供します
2 読む楽しみ、学ぶ喜びを支えます
3 子どもの「読む習慣」と「読み解く力」を育みます
4 居心地よく、安心できる場を提供します
5 1～4の目標を実現するため、図書館と図書館員の力を活かし、伸ばします」（田原市図書館の目標 大項目）
「誰でも、望む知識や必要な情報を手に入れることを保障するただ一つの機関」として、読書・学習・課題解決の支援を通じて住民の自立に役立つことをめざす。
- ⑤ 3館の所蔵資料...図書44万冊、雑誌3万冊（約500誌）、視聴覚資料2万。
- ⑥ 予算...138百万円（正職員給与を除く） 内資料費35百万円。
- ⑦ 職員...正職員10(司書有資格7)、嘱託員21(司書20)、臨時職員6(司書1)。
- ⑧ 利用状況...貸出765千点で人口1人12点強、全国平均の2倍以上だが減少傾向。
年に1度でも資料を借りた市民は人口の18%、入館者数33万人。
利用減の原因としては、人口構造・メディア・情報流通の変化、学校連携の重点シフト、隣接する豊橋市の図書館新設等が考えられる。

2 田原市図書館の経営

- ① 教育委員会事務局教育部に直属する課相当の教育機関であり市職員による直営。
- ② 館長の諮問機関として、図書館協議会を設置。
- ③ 「まち＊ほん 田原市生涯読書振興計画」…図書館計画を兼ね、図書館が事務局、図書館協議会が協議機関。

「4 重点的に取り組む施策

- (1) 学校における読書・学習・情報のセンターとしての学校図書館の機能を強化し、バックアップする。
 - (2) 渥美・赤羽根両図書館を地域の情報と交流の拠点として、他の教育文化施設とのネットワークや複合化による相乗効果を高めていく。
 - (3) 最新の情報技術を活用し、教育文化以外の分野とも協働しながら、読書や図書館利用に障害のある人たちが使いやすい読書環境を追求する。
 - (4) 電子書籍への対応や地域文化資源の発掘・保存・活用とデジタル化の研究と試行について、東三河レベルの連携を視野に取り組む。
 - (5) 生涯読書をPRする事業を実施、市民と共に読書振興活動を促進する。」
- ④ 図書館の正職員及び嘱託司書は、児童・学校連携・図書・メディア・参考郷土・にじいろ・元気・総務・PR・赤羽根・渥美の11チームに分かれ、図書館独自の目標管理を実施。中央職員は原則として2チームに所属し、各チームにチームコーディネータ（TC）を置く。他に、中央には分野毎の棚管理チームがある。
 - ⑤ 毎週1回1時間、館長が主宰する週例会議にTCか代理が集まる。館全体or複数チームに関わる課題について協議、決定し、必要に応じスタッフマニュアルを改訂する。全員で議論したい事項については、月1回の全体ミーティングに諮る。
 - ⑥ トラブル・よいこと・提案・破損個所等書き込み用ファイル…正職員・嘱託員・臨時職員の立場を問わず、誰でもグループウェアで書き込み可（年間、数百件）⇒漏らさず週例会議で検討⇒結果を再びグループウェアですべての職員へ。
 - ⑦ 人材育成…新人・転入者へのOJT、外部講師によるOFF-JT、外部研修への派遣、館長面談等による育成。
 - ⑧ 主務嘱託司書制度…「非常勤職員の主力化」という現実への対応。企画や人材育成に主導的に関わる嘱託司書を、「主務」として報酬引き上げを含め制度化。
 - ⑨ 利用減少対策プロジェクト…1⑧で触れた利用減少への対策を昨年度検討し、本年度から順次、実施へ。
 - ・「棚魅力化」の取組開始：利用増に成功している部門の棚管理手法を全体化。資料収集や除籍の基準の見直しも実施予定。
 - ・PRチームの設置：SNS活用が突出するがポスターやイベントは部門や事業毎バラバラ。統合し効率化とレベル向上を図る。外部講師のPR研修も実施。
 - ・乳幼児の保護者、工場の期間工、中高生、市職員等、ターゲットを絞り、ニーズに合ったアプローチを工夫。

3 田原市図書館の特徴的な事業と連携・協働の実態

- ① 田原市図書館における課題解決支援サービスのはじまりは、平成22年7月の「再発見！鳥羽⇄伊良湖フェリー展」。
- ② 元気はいたつ便…高齢者向けの介護施設等を巡回し、資料の団体貸出とともに、

- 回想法やレクリエーションを組み合わせたプログラムを実施する。
- ③ 行政支援・議会連携・出前図書館…市職員の事務事業への情報面からの支援（調査協力・館内展示協力等）、議会図書室を運営する議会事務局と連携した議員への資料提供や調査協力のほか、本年度から市役所への図書館の「出前」を開始。博物館と連携した館内展示・ポスター掲示・調査協力等も行政支援の枠組み。
 - ④ 学校連携・大学連携…学校・大学は地域の持続的発展のための貴重な資源である（社会教育施設と同様）という認識。市立小学校とは、移動図書館巡回数を減らす一方で小中学校図書館への資料配送を開始し、司書教諭・学校司書の研修や、協力中学生の職場体験受け入れも実施。市内の3つの県立高校とは資料貸出・選書アンケート依頼・ボランティア受け入れ等で連携。隣市にある大学のメディア芸術専攻とは、連携イベント開催と卒業制作協力で協力。豊橋技術科学大学からは毎年、インターンを受け入れ、昨年は業務管理用アプリの開発、子ども向け科学遊びイベントの開発・開催等が実現した。
 - ⑤ 市民館（公民館）・コミュニティ連携：図書室の改革や郷土史編纂への協力
 - ⑥ 豊橋連携…競合状態を放置せず、共に地域の図書館を振興するために連携を強化する。イベント・PR と研修の協力から。28年度「魅力対決 豊橋 vs 田原（両市図書館連携パネル展）」ではシティプロモーションに挑戦、29年度「図書館員と書店員が選ぶガチマンガ☆100」では書店も巻き込む。どちらも、市民投票により盛り上げを図る。地域に関する Wikipedia の項目を新たに作ったり修正したりするワークショップ、ウィキペディアタウン（当地では「ブラトヨハシ」「プラタハラ」）は、地域のITエンジニアの団体、Code for Mikawaの主催で、両市図書館と田原市博物館も協力し、昨年度実現した。本年度も田原側は開催予定。
 - ⑦ ふしぎ文学半島プロジェクト…「うつくしあやし幻想の渥美半島へ：幻想文学の巨人、泉鏡花と柳田國男。彼らは愛知県の東南、渥美半島と不思議な縁で結ばれていました。二人にちなみ、幻想的な物語の数々に彩られたこの半島から「ふしぎ文学」の魅力を発信します。」（ポスターより）田原生まれの泉家の養女、泉名月の遺した蔵書を核に「泉名月記念ふしぎ図書館」を中央図書館内に設置し、怪談専門誌「幽」編集長の東雅夫氏等の協力を得て図書選定やイベント。「お散歩e本：ふしぎ編」という電子書籍も刊行。地域のブランディングとしての側面。
 - ⑧ 図書館フレンズ田原との連携…2002年に開館した中央図書館（市制施行まで田原町図書館）の建設運動の中心。現在は、図書館を含む複合施設「田原文化広場」内で「リサイクル・ブック・オフィス」を運営。大活字図書の寄贈、「図書館の誕生日」の開催、イベントボランティアの運営等、図書館にとって力強い存在。他にも、多くの市民ボランティアが図書館に関わっている。
 - ⑨ 連携の基本的な考え方…「5-4 図書館の外に利用者や協力者を求めることに努めます。/積極的に図書館の外に出て、新しい利用を掘り起こし、館外の協力者の支援を得ることに努める。」（田原市図書館の目標 小項目/説明）

〔参考文献〕

『田原市の図書館 図書館事業年報（平成28年度）』田原市図書館、2017